

農業者が協力して取り組む担い手確保に向けた体制づくり ～指導農業士・農業士・青年農業者による高校との連携活動～

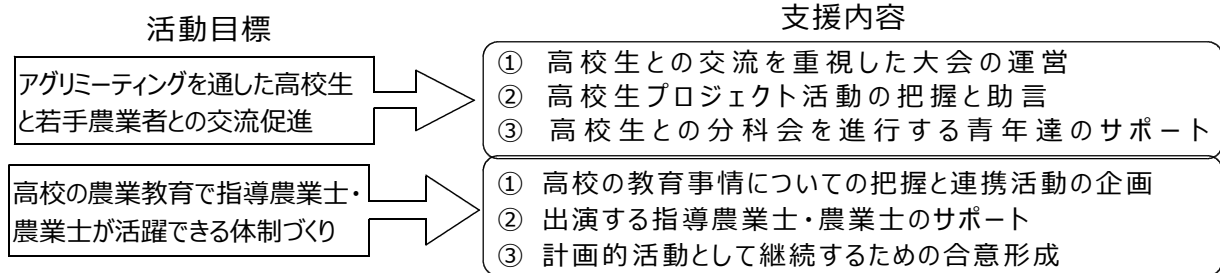
広域 担い手

◇ 活動のねらい

職業選択を具体的に考える年代である高校生に農業者とふれあう活動を展開した。

普及センターはH28に青年農業者の組織「アグリネット^{くしろ} 946」へ、H29に北海道指導農業士・農業士釧路地区連絡会議（以下、連絡会議）へ北海道標茶高校との連携を働きかけ、農業分野の人材確保と各組織活動の活性化を支援した。

1 活動の経過



2 活動の成果

アグリミーティング(管内青年農業者実績発表大会)における農業者と高校生の交流



初の高校生発表が実現(H29)



高校生のプロジェクト発表を全体発表形式から分科会形式に変更した結果、H30以降は活発な意見交換会に改善できた。



3つの分科会方式に改善(H30～)

目的の再確認

- 生徒の9割は非農家で農業に触れ始めたばかり。
- 農業・農家に親しみを覚えてもらえる時間にしよう！

心がけること

- 課題への疑問点や農家に聞きたいことを引き出す。
- 農業者は現場経験や苦労話を交えてアドバイス。

注意点

- 発表審査ではないので、ダメ出しは絶対しないで、様々な解決策や考え方があることを知ってもらおう！



経験談を生き生きと語る青年農業者

高校生の農業に対する理解を高めると共に交流を楽しみに思う高校生が増えた。また青年活動の活性化も図ることができた。

図1 青年達と考えて実践している『高校生との接し方』

<アグリミーティング参加者の声>

- ◆ 農業法人に就職するので、仕事に生かせる話や出会いがあった。(H30・非農家の高校生)
- ◆ 農家ならではの助言が得られるので、生徒にとっても有意義な時間になっている。(R1・教諭)
- ◆ もっと農家の意見を聞きたい。年1回と言わず複数回、交流したい。(R1・複数の高校生より)
- ◆ このような交流活動は継続していくことが大事。(R1・多数の農業者・高校生・関係機関より)

標茶高校の農業教育活動に管内の指導農業士・農業士を派遣する体制を構築

H29年12月 連絡会議会長が普及センターに相談

「生徒が農業に興味を持って地域に残ってくれるような活動を連絡会議としてできないか！」



H30年1～8月 協議の場づくりに取り組んだ

校長が会長宅を訪れるようになり連携のあり方を検討した



H30年7月 北海道高校農業教育研究大会（釧路市）

「担い手確保に向けて高校と連携したい」と会長が講演



高校との連携活動が本格的にスタート

表1 連絡会議と標茶高校との連携活動実績

開催時期	活動内容
H30年7月	北海道高校農業教育研究大会で会長が講演
H30年9月	進路座談会で指導農業士が講演
H30年11月	校内発表会審査員に指導農業士・農業士を派遣
H30年11月	道東地区農業クラブ顧問会議で指導農業士が講演
R1年5月	春季研修会を標茶高校で開催して視察・懇談会
R1年9月	進路座談会で指導農業士2名が講演
R1年10月	校内発表会審査員に農業士2名を派遣

生徒との交流だけでなく指導農業士・農業士が高校を訪れて教育の現状を学ぶことで、教諭との相互理解が進んだ。

さらに関係者が反省会を行い、結果を役員会にフィードバックすることで取り組みを年々充実させることができた。



普及センターが両者の思いを橋渡し



教育の現状を学んだ後に教諭と懇談会



会長・校長・農務課・普及Cによる反省会

人材確保への第一歩



法人に就農して感動した経験を全道で発表した非農家出身の標茶高校卒業生(R1)



進路座談会后「農家になりたい」と相談した生徒に助言する指導農業士(R1)

アグリネット946や連絡会議の交流活動を経験した非農家出身の標茶高校卒業生が管内の法人従業員として就農する例が複数人誕生してきた。

関係機関と指導農業士を集めて開催した農業改良普及推進会議では取り組みに「協力したい」・「地道に継続していくことが大事」等の声が多数得られ、人材確保に向け地域の期待が高まっている。

3 今後の対応

アグリネット946・連絡会議・標茶高校それぞれが交流活動の継続を強く望んでいることから、引き続き支援する。現場では「募集しても人が集まらない」との声が多いので、高校生（普通科高校を含む）から農業の雇用労働力につなげる活動を令和3年度から展開できるよう検討する。